



筑紫女学園大学リポジット

Art-historical Materials Extracted from the “Dazaikannaishi” : Part Three

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 緒方, 知美, 井形, 進, OGATA, Tomomi, IGATA, Susumu メールアドレス: 所属:
URL	https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/4

太宰管内美術史料（稿）3

緒方知美・井形進

Art-historical Materials Extracted from the “*Dzaikannaishi*” : Part Three

Tomomi OGATA and Susumu IGATA

前文

本史料集は、伊藤常足編『太宰管内志』から、美術関係史料を抜粋したものである。「太宰管内美術史料（稿）1」（『筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所年報』第21号、2010年）において『太宰管内志』筑前国1～3（筑前国志一、二、怡土郡）を、「太宰管内美術史料（稿）2」（『筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所年報』第22号、2011年）において同書の筑前国4～6（志摩郡、早良郡上、早良郡下）を対象としたのに続き、今回は同書の筑前国7、8（那珂郡上、那珂郡下）を対象として作業を行った。本作業の目的については「太宰管内美術史料（稿）1」号で述べたとおりである。以下に凡例を示す。

なお、本研究は、平成23年度筑紫女学園大学特別研究助成を受けた共同研究「太宰管内仏教美術研究」の成果である。

凡例

- 一、本稿は、『太宰管内志』（天保12年〈1841〉伊藤常足著、昭和44年〈1969〉歴史国書社刊本）より美術関係史料を抜粋したものである。
- 二、太宰管内美術史料（稿）3では、『太宰管内志』筑前国7、8（那珂郡上下）を対象とした。
- 三、抜粋の対象としたのは、下記①～④の条件に合致する絵画・彫刻・書跡・工芸・建造物等である。
 - ①時代、制作に関与した人名の明確な作品
 - ②造形に関する評価を伴う作品
 - ③美術の範疇でとらえうる史跡

④歴史上著名な人物に関わる伝承を伴う作品

四、事項は所載順に並べ、項目は通し番号、所載箇所、種別、作品名、時代、人名、綱文、本文、引用元、備考とする。

五、文字は常用漢字を用い、異体や旧字体などはつとめて常用漢字に改めた。

六、割注は< >で、返り点は㊦、①②③、㊧㊨で示した。

090

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (180頁15行)
- 2 種別 工芸
- 3 作品名 紫綾蓋・平文野剣1腰・赤漆御弓1張・箭4筋・平文鉾1本・五寸鏡1面・平文麻桶1口・平
- 4 時代 寛仁1 (西暦1017)
- 6 綱文 一代一度奉幣により、那珂郡住吉神社ほか西海道48所に、紫綾蓋・平文野剣1腰・赤漆御弓1張・箭4筋・平文鉾1本・五寸鏡1面・平文麻桶1口・平文線柱1本を奉る。
- 7 本文 寛仁元年九月廿日微雨依可被定一代一度奉幣 (中略) 十月二日云々西海道<筑前宗像・住吉・筑後ノ高良・宇佐・香椎・肥後ノ阿蘇・石清水姫宮>已上卅八所被奉紫綾蓋<四角在[㊦]金銅ノ[㊦]鈴>平文野剣一腰<入[㊦]赤漆細櫃[㊦]>赤漆御弓一張箭四筋平文鉾一本<在[㊦]鉄身尻[㊦]>五寸ノ鏡一面<在[㊦]平文錦折立[㊦]>平文麻桶一口平
- 8 引用元 『左経記』 1巻

091

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (184頁3行)
- 2 種別 建造物
- 3 作品名 筥崎宮社殿
- 4 時代 延長1年 (西暦923)
- 6 綱文 八幡大菩薩、延喜21年に託宣し、穂波宮筥崎松原に遷る。延長元年、柏の柱を用いた社殿造営が成り、仏経を遷しおわる。
- 7 本文 延喜廿一年六月廿一日大菩薩御託宣、吾穂波ノ宮柱三悪有之欲移住筥崎松原其故ハ昔天下国土乎鎮護始時戒定恵之宮宿置志松原奈利仍号筥崎末世□敵新羅禍害発物吾戒定恵ノ宮者置礼留筥崎松原仁建立新宮可降伏新羅敵国降伏之字乎書付天吾座下ニ置天其於[㊦]石居[㊦]柏柱乎立天宮殿乎造向[㊦]彼新羅
- 8 引用元 『諸神根元抄』 上巻

092

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (185頁 3 行)
- 3 作品名 非画非書 (字) の阿弥陀三尊像
- 5 人名 行教
- 6 網文 行教和尚の衣上に現る非画非書 (字) の阿弥陀三尊像を写す。
- 7 本文 尋其内驗昔現於行教和尚ノ衣上非画非書 (字) 写阿弥陀三尊像然則本国之宗廟
② ① ② ① ② ①
- 8 引用元 『朝野群載』 3 卷匡房卿管崎ノ記

093

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (185頁 4 行)
- 2 種別 建造物
- 3 作品名 管崎宮神殿
- 5 人名 太宰少貳真村
- 6 網文 太宰少貳真村、神託を受け、管崎宮神殿を造営する。
- 7 本文 太宰少貳真村朝臣石清水八幡宮にして廻廊造進すべき由立願ありけるに神託有て
日管崎新宮を造て御殿を乾にむけ柱に柏を用ふべしもし末世に至て異国より我国
を窺ふ事あらば我其敵を防ぐべし此故に敵国降伏の四字を書て我座下の礎ノ面に
置くべしと宣ふに依て真村朝臣やがて其趣を奏聞するに則勅許あり其詞に云託宣
之旨為禦
① ②
- 8 引用元 旧記

094

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (185頁 6 行)
- 2 種別 建造物
- 3 作品名 管崎宮廻廊
- 5 人名 太宰大貳有国
- 6 網文 太宰大貳有国、管崎宮に祈つて海難を遁れたことにより、廻廊を造り奉る。
- 7 本文 又四方の廻廊は太宰ノ大貳有国筑紫に降る時波風はげしくして舟すでにくつがへ
らんとしけるに管崎ノ宮に祈りて此難を遁れしめ給はゞ廻廊造りて奉らんとまう
しけるにやがて波風しづまりて事故なく筑紫につきて彼宮に詣たりしにわたつみ
の海の面も静かにありくに安き世とはしらずやと神詠有しかば大貳おそれ尊みて
やがて廻廊を造り奉りしなりとあ
- 8 引用元 旧記

095

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上（185頁13行）
- 2 種別 彫刻
- 3 作品名 御体
- 4 時代 建久7年（西暦1196）
- 5 人名 筥崎宮
- 6 網文 官外記、転倒した那珂郡筥崎宮の神体を、直し奉る可きか否か勘申す。
- 7 本文 筥崎宮ノ件建久七年十一月九日第二御体転倒可奉直否<官外記勘申>右府被申云
被直之条不可異儀強不可折日次只以開宝殿之次可奉直也、
- 8 引用元 『三長記』

096

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上（190頁6行）
- 2 種別 書跡・工芸
- 3 作品名 延喜帝勅筆の紺紙金泥の敵国降伏の文字ほか
- 5 人名 醍醐天皇・秀吉・大内義隆・高力左近・黒田忠之・基熙・舟曳久之丞・弘法大師・盛範
- 6 網文 那珂郡筥崎宮に、延喜帝勅筆の紺紙金泥敵国降伏の文字37枚・公家16人筆外題妙法院宮筆の縁起2巻・天正15年秀吉寄進の短冊7枚・大内義隆寄進の和歌・高力左近寄進
- 7 本文 <敵国降伏ノ文字三十七枚ハ延喜帝勅筆紺紙金泥之、縁起二巻ハ筆者公家十六人之、外題ハ妙法院之宮之、短冊七枚ハ天正十五年六月十八日太閤秀吉公ノ寄進之、和歌□首大内義隆卿寄進之、大刀一振ハ高力左近寄進、御劍一振、陰陽ノ太刀二振□刀一腰以上国主忠之朝臣寄進、八幡宮ノ額ハ近衛左大臣基熙公ノ筆、八幡神御名
- 8 引用元 [宝物目録]

097

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上（194頁15行）
- 2 種別 建造物
- 3 作品名 櫛田神社社殿 鳥居
- 6 網文 南向きで太宰府往來の道に面していた櫛田社の向きを寅の方に改造する。また鳥居を同方に建てる。
- 7 本文 博多□（櫛）田社昔は南向にして社前太宰府往來の道なりしを近キ比御社の向を替えて寅ノ方を前にして改造<社地は本のみ、なり>鳥居をも同方にたてたり社

地広く神殿拝殿能舞台廻廊其外諸堂そなはれり、

8引用元 [貝原翁云]

098

1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (195頁 1行)

2 種別 工芸

3 作品名 鐘

4 時代 天正5年 (西暦1577)

5 人名 綾部玄蕃允

6 網文 天正五年、豊後国大友家家臣綾部玄蕃允、櫛田神社に現存する古鐘の銘を削り、新たに刻む。

7 本文 <此社に古代の鐘一ツつたはれり高さ一尺七八寸あり不窳ナラ不^①擱^②己ナラ感且容之と云銘をしるせり天正五年豊後国大友家ノ家臣綾部玄蕃允と云者此鐘の古銘を削去て新に銘を成せり削りしさまは今も見ゆ

8引用元 [貝原翁云]

099

1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (196頁 3行)

2 種別 工芸

3 作品名 承天寺及諸堂額諸牌等の大字

4 時代 仁治3年 (西暦1242)

5 人名 仏鑑禪師

6 網文 仏鑑禪師、謝国明創建、円爾弁円開山の承天寺に、承天寺及諸堂額諸碑等の大字を寄せる。

7 本文 仁治三年秋謝国明於博多東偏創承天寺興爾領之、仏鑑聞新寺事書承天寺及諸堂額諸牌等大字寄之仏鑑書法妙絶故有此送、(中略)
此寺乱世の兵火にかゝりて仏堂三門等も焼亡せしを仏堂は其後に造れりしかど三門礎のみ残れりされども仏鑑禪師ノ額は今に伝われり、<額の本書は聖福寺にあり (後略)>

8引用元 『元亨釈書』 7卷

100

1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (197頁 7行)

2 種別 彫刻

3 作品名 丈六釈迦・弥勒・弥陀之三尊像

- 4時代 建久6年（西暦1195）
- 5人名 栄西
- 6網文 栄西、聖福寺を創建し、丈六の釈迦・弥勒・弥陀之三尊像を安置す。
- 7本文 <博多百堂ノ地者宋人令建立堂舎之旧跡也而件精舎破壊之後再不修営之間偏為空地雖送星霜既又依為仏地人類不居住仍建立一伽藍欲備大菩薩ノ御法樂致本家御祈禱并建立堂舎安置丈六ノ釈迦・弥勒・弥陀之三尊鎮護国家且為除凶徒之障碍且為備向之証跡殊被仰
- 8引用元 [言上書]

101

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上（199頁5行）
- 2 種別 彫刻
- 3 作品名 聖福寺仏殿記の石碑
- 4 時代 正平23年（西暦1368）
- 5 人名 陸仁
- 6 網文 聖福寺に、聖福寺仏殿記の石碑を立つ。河南陸仁記並びに篆額書丹。
- 7 本文 正平二十三年春二月七日河南ノ陸仁記並篆額書丹住持老旧等立石
- 8 引用元 『群書類従』「聖福寺仏殿記」

102

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上（199頁14行）
- 2 種別 書跡
- 3 作品名 扶桑最初禪窟之六字
- 5 人名 後鳥羽院
- 6 網文 後鳥羽院、自ら扶桑最初禪窟之六字を書し、博多聖福寺に下賜す。
- 7 本文 後鳥羽院自書扶桑最初禪窟之六字下賜聖福寺、
- 8 引用元 [寺記ノ略]

103

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上（201頁13行）
- 2 種別 工芸
- 3 作品名 洪鐘
- 4 時代 応永20年（西暦1413）
- 5 人名 武衛将軍
- 6 網文 大檀那武衛将軍、堅糟村薬王院に洪鐘を施入す。

7本文 大日本国西海路筑前堅糟村本堂薬王院再鑄洪鐘其銘云天尊北辰地接東震皇罔永固
仏日高輝粵供鐘再発声々塵清浄薬壺益添色々法是空於乎聞声而見色見色而聞声諸
仏及衆生世間相常住、大檀那武衛将軍、沙弥道鎮近江守平満家、勸進沙弥宗通、
岨応仁二十年癸巳四月十六日敬白、

8引用元 [洪鐘ノ銘]

104

1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (202頁2行)

2 種別 彫刻

3 作品名 薬師如来

5 人名 伝教大師

6 網文 東光寺本尊薬如来は伝教大師作との伝えあり。

7 本文 那珂郡東堅糟村薬王院東光寺本尊薬如来ハ伝教大師□

8 引用元 『筑陽記』

105

1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (202頁3行)

2 種別 彫刻

3 作品名 本尊及日光月光十二神将弁財天金剛力士

4 時代 応永20年 (西暦1413)

5 人名 武衛

6 網文 武衛、東長寺の仏像を修補する。

7 本文 応永廿年武衛修補本尊及日光月光十二神将弁財天金剛力士撞鐘等再興之。

8 引用元 『筑陽記』

106

1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (202頁3行)

2 種別 工芸

3 作品名 撞鐘

4 時代 応永20年 (西暦1413)

5 人名 武衛

6 網文 武衛、東長寺の撞鐘を再興する。

7 本文 応永廿年武衛修補本尊及日光月光十二神将弁財天金剛力士撞鐘等再興之。

8 引用元 『筑陽記』

107

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (202頁4行)
2 種別 建造物
3 作品名 諸堂
4 時代 天文5年 (西暦1536)
5 人名 道教
6 網文 沙門道教、東長寺の諸堂を修造する。
7 本文 文永五年沙門道教諸堂修造。
8 引用元 『筑陽記』

108

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (202頁4行)
2 種別 建造物
4 時代 寛永年中 (西暦1624-1643)
5 人名 黒田忠之
6 網文 国主忠之、東長寺の堂院僧房を重興し、飛來権現を建立する。
7 本文 寛永年中国主重興堂院僧房建立飛來権現^②^①^②^①
8 引用元 『筑陽記』

109

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (203頁1行)
2 種別 工芸
3 作品名 弘法大師将来独鈷杵・仏舎利1粒
4 時代 大同1年 (西暦806)
5 人名 弘法大師
6 網文 弘法大師、帰朝し博多に東長寺を創建し、唐より携来した独鈷杵及仏舎利1粒を蔵す。
7 本文 弘法大師渡唐之後、大同元年帰朝到博多創造一寺、所携来独鈷杵及仏舎利一粒蔵此寺、号東長密寺、(中略)
^②^①^②^①
元弘比羅平火、寺院悉焼失也此時寺僧以不動像及鯨鐘埋林中携大師像与独鈷遁于志摩郡志登村其後經三年而建寺此地云云其後又
^②^①^②^①^②^①^③^②^①^②
8 引用元 [寺記略]

110

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (203頁3行)

2種別 建造物
 3作品名 本堂・護摩堂・鐘楼・大日堂
 5人名 黒田忠之
 6網文 黒田忠之、東長寺に本堂・護摩堂・鐘楼・大日堂を造営する。
 7本文 国主忠之朝臣之時造営本堂護摩堂鐘楼大日堂等^②^①
 8引用元 〔寺記略〕

111

1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (204頁8行)
 2種別 彫刻
 3作品名 弘法大師自作の千手観音
 5人名 弘法大師
 6網文 大乘寺に、弘法大師自作の千手観音あり。博多七観音の一つ。
 7本文 本尊は弘法大師自作の千手観音なり博多七観音の一ツなり、

112

1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (204頁9行)
 2種別 工芸
 3作品名 水晶の水玉
 6網文 大乘寺に、水晶の水玉あり。
 7本文 <此寺ノ什物水玉と云物あり径一寸三步あり水晶にて世に類なき美玉なり、>

113

1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (205頁8行)
 2種別 絵画
 3作品名 吞碧楼の図
 5人名 双桂惟肖・大蔭・豫章竹庵懐渭
 6網文 妙楽寺吞碧楼にて、大蔭和尚、能画者に命じてこれを図せしめ、豫章竹庵懐渭・双桂惟肖に画讚をもとめる。
 7本文 又二首并序双桂惟肖、妙楽寺乃冷泉石城遺址也所謂吞碧楼ハ在寺ノ坤隅元明本朝哲匠頭詠満壁大蔭伯伝聞歆艶命能画者図之得瑤席竹庵禅師一篇以系其上、且属余続貂焉^②^①^①^①
 8引用元 『石城遺宝』

114

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (207頁 8行)
2 種別 彫刻
3 作品名 聖観音
5 人名 慈覚大師
6 綱文 龍宮寺に慈覚大師作の聖観音あり。
7 本文 <龍宮寺ノ聖観音は慈覚大師ノ作なり、>
8 引用元 [伝記]

115

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (207頁 9行)
2 種別 絵画
3 作品名 絵図
6 綱文 松楽寺に、昔の絵図伝わる。
7 本文 <昔の絵図伝はれりと云>

116

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (209頁 5行)
2 種別 彫刻
3 作品名 湛誉上人の木像
6 綱文 五ヶ山の別所に湛誉上人の木像あり。
7 本文 <五ヶ山の内別所といふに湛誉上人の木像といふ物あり其堂のうしろに湛誉上人の墓と云物もあり、>
8 引用元 [土人ノ語伝]

117

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (210頁 1行)
2 種別 建造物
3 作品名 方丈・三門・仏殿・諸堂
5 人名 黒田長政・春屋宗園
6 綱文 黒田長政、春屋宗園の請により那珂郡筥崎に崇福寺を再興し、方丈・三門・仏殿・諸堂を建立する。
7 本文 洛北春屋国師此寺再興ノ事を請に依て国主長政朝臣那珂郡筥崎松原に移して方丈三門仏殿諸堂等を造備へて菩提所として寺産三百一石九斗七升一合式勺を寄附し給へり、<此外五十石は開山堂につく>

8引用元 『仙巢稿』下巻

118

1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (211頁1行)

2 種別 彫刻

3 作品名 千手観音・正観音・十一面観音

5 人名 弘法大師・雲慶・定朝・慈覚大師

6 網文 博多七観音ハ弘法大師・雲慶・定朝・慈覚大師作の伝承をもつ仏像あり。

7 本文 博多七観音ハ大乘寺ノ千手観音<弘法大師ノ作>、妙音寺ノ正観音<雲慶ノ作>、観音寺ノ正観音<雲慶ノ作>、聖福寺ノ千手観音<定朝ノ作>、乳峯寺ノ十一面観音<作者不知>、龍宮寺ノ正観音<慈覚大師ノ作>、今一仏ハ不詳とあり

8引用元 旧記

119

1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (211頁10行)

2 種別 彫刻

3 作品名 十一面観音

6 網文 乳峯寺に十一面観音の古仏あり。

7 本文 <乳峯寺ノ十一面観音ハ博多七観音の一ツにてふるき仏なり>

120

1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (212頁1行)

2 種別 彫刻

3 作品名 虚空蔵菩薩像

4 時代 永享7年 (西暦1435)

5 人名 慈元・保祐・祐金大姉・玄秀

6 網文 海蔵寺に永享7年銘の虚空蔵菩薩像あり。

7 本文 大日本国筑前筥崎臥龍山海蔵禅寺虚空蔵菩薩<住持比丘慈元等>保祐十方檀那等信施旦那祐金大姉庚辰女永享七年乙卯二月十一日癸丑日開日勸進比丘沙門玄秀判とあり、〔師説〕に三笠郡本城ノ南の高岸ノ下竹林ノ中にして石壁に伽藍ノ形を彫付たり其前に聊の平地あり此処を虚空蔵ノ台と云昔虚空蔵ノ堂有りしと云、其時の仏像今は宰

8引用元 〔虚空蔵菩薩体中ノ銘〕

121

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (212頁3行)
- 2 種別 絵画
- 3 作品名 伽藍ノ形
- 6 網文 本城の石壁に伽藍ノ形を彫りつけたものあり。
- 7 本文 三笠郡本城ノ南の高岸ノ下竹林ノ中にして石壁に伽藍ノ形を彫付たり其前に聊の平地あり此処を虚空蔵ノ台と云昔虚空蔵ノ堂有りしと云、其時の仏像今は宰府の六度寺にあり其体中の銘に云々とあり、
- 8 引用元 [師説]

122

- 1 所載箇所 筑前之七那珂郡上 (212頁8行)
- 2 種別 彫刻
- 3 作品名 飛來権現ノ神体
- 6 網文 飛來権現社に古き木像多くあり。
- 7 本文 飛來権現ノ神体ハ古キ衣冠したる木像あまたあり、
- 8 引用元 [師説]

123

- 1 所載箇所 筑前之八那珂郡下 (213頁1行)
- 2 種別 建造物
- 3 作品名 裂田溝
- 4 時代 神功皇后1年
- 5 人名 神功皇后
- 6 網文 神功皇后、那珂郡迹驚岡の神田に水を引くため、裂田溝をつくる。
- 7 本文 元年三(四)月云々更祭祝神祇躬欲西征爰定神田而佃之時引讎河水欲潤神田堀
溝及于迹驚岡大磐塞之不得穿溝皇后召武内宿禰捧鏡劍令祈祷神祇而求通溝則当
時雷電霹靂裂其磐令通水故時人号其溝曰裂田溝也とあり。
- 8 引用元 [神功皇后紀]

124

- 1 所載箇所 筑前之八那珂郡下 (222頁14行)
- 2 種別 建造物
- 3 作品名 博多外郭の堀
- 5 人名 豊臣秀吉

- 6 網文 秀吉、博多に横路堅路の町割を営む。天正の比に造る外郭の堀は僅かに残る。
- 7 本文 秀吉公憐み給ひて石田治部少輔・小西摂津守・瀧川三郎兵衛・長東大蔵大輔・山崎志摩守を惣奉行として横路堅路の町割を営み、離散したる者共を招集め本の如く家作りして市店の業を作べしと多くの金銀を賜ひければ云々なども見えたり、(中略) 天正の比に造れりし外郭の堀今僅に残してあり、
- 8 引用元 『別次軍談』 9 卷

125

- 1 所載箇所 筑前之八那珂郡下 (226頁 1 行)
- 2 種別 建造物
- 3 作品名 荒津の城楼
- 4 時代 乙巳年
- 6 網文 乙巳年、荒津の楼城をつくる。
- 7 本文 第三度者乙巳年八月十六日辛酉日夷類五万三千人發来造亞羅津城楼
- 8 引用元 [宗像神社古縁起]

126

- 1 所載箇所 筑前之八那珂郡下 (226頁 1 行)
- 2 種別 建造物
- 3 作品名 東照権現ノ社
- 4 時代 慶長 3 年 (西暦1598)
- 5 人名 黒田忠之
- 6 網文 国主忠之、東照権現の社を立てる。
- 7 本文 慶長三年国主忠之朝臣荒戸山をひらきて東照権現ノ社を立て社領三百石余を寄附し玉へり、
- 8 引用元 [貝原翁云]

127

- 1 所載箇所 筑前之八那珂郡下 (235頁14行)
- 2 種別 絵画
- 3 作品名 筥崎の松樹の画
- 6 網文 筥崎の松樹を、日本人多く画に上げて奇勝となす。
- 7 本文 或称冷泉津或称筥崎ノ津云々北有白沙三十里松樹成林日本松皆海松、只此有陸松^②日本人多上画^①以為奇勝^②_①
- 8 引用元 『海東諸国記』

128

- 1 所載箇所 筑前之八那珂郡下 (244頁15行)
- 2 種別 工芸
- 3 作品名 手盥盤
- 6 綱文 聖福寺の塔の軫柱の礎石を八幡天神両社の手盥盤とする。
- 7 本文 又塔の軫を立てし礎残りて彼村の八幡天神両社の手盥盤とせり石ノ長五尺許横四尺許柱を彫入れす穴の径二尺許なり

129

- 1 所載箇所 筑前之八那珂郡下 (245頁10行)
- 2 種別 建造物
- 3 作品名 博多橋
- 5 人名 高明
- 6 綱文 沙門高明、博多橋を造る。
- 7 本文 沙門高明者本是播磨国書写山性空上人の弟子也、後住太宰府ノ大山寺三衣一鉢之外更無余資念仏読経以之為業或造博多橋
- 8 引用元 『続本朝往生伝』

(おがた ともみ：アジア文化学科 講師)

(いがた すすむ：九州歴史資料館学芸員・技術主査)